

令和元年6月27日

養父市議会議長 深澤 巧 様

議会広報特別委員会
委員長 津崎 和 男

議会広報特別委員会中間報告書

閉会中において、本委員会の所管事務につき調査したことを次のとおり報告する。

記

- 1 調査年月日 令和元年5月8日(水)
- 2 調査事項 丹波市議会議会だより「たんぱりんぐ」の編集等全般、スマートフォン専用アプリ、市議会公式フェイスブックの管外調査について
- 3 調査内容

今回の視察は、養父市議会広報紙が「読みにくい」「堅苦しい」「若い世代に読まれていない」などの指摘から、読みやすい議会だより、子育て世代や若年層の市民にも読者層を広げる広報編集を行うため、先進的な編集をしている丹波市議会広報広聴委員会を調査した。

丹波市議会の議会広報広聴委員会の活動内容について

丹波市は面積493.21km²、人口64,380人、25,795世帯、議員定数20人(平成31年3月末現在)で、平成16年11月に6町が合併して誕生した。今年度一般会計予算は351億円である。

議会広報広聴委員会は7名の委員で構成され、議会だよりの発行を中心に行っている。

議会だより「たんぱりんぐ」は、A4版、表紙・裏表紙カラー、中面2色でページ数は20ページ、22,400部を年4回発行している。発行日は定例会の翌月20日に市内世帯だけでなく、コンビニ等300箇所へ配送している。今年度予算は1,654,560円(税込)である。議会だよりの改革は平成26年度に始まり、現在も続いている。

スマートフォン専用アプリは、自治体と住民をつなぐアプリで、これまでの紙媒体による広報紙でなくパソコンやスマートフォンなどで読める広報紙として全国で750以上の自治体で導入されており、丹波市でも平成29年10月から導入し、子育て世代に広く利用されている。

公式フェイスブックは、議員提案により平成25年4月20日に開設し、運用要綱に基づき、週1回から2回事務局職員が更新している。

〈まとめ〉

親しみやすく読みたくなる議会だよりにするためには、まず目標・目的を定め、

読者層を広げていく必要がある。丹波市議会では読者層を思い切って30代から40代の子育て世代の女性とし、この世代に読まれる広報をめざしている。写真や投稿で多くの市民を登場させ、子育て世代のグループ・団体も掲載し、市民を巻き込んで読者層を増やす工夫を繰り返すことが重要である。議員よりも市民を記事に登場させて市民の興味を引き、読みたくなる議会だよりに転換しなければならない。

文面も中学生が理解できるわかりやすい文章にすることが肝要である。難解な議会用語には解説も必要であり、写真やイラスト、グラフや表なども取り入れて、読むよりも「見る」の楽しい紙面に刷新しなければ、議会だよりが待ち遠しくならない。

また、編集作業にあたり議会内で完結するためには、編集ソフトを導入することも検討したい。

さらに、スマートフォンなどSNSが浸透している若者向けに、読みたい記事やホームページがいつでもどこでもすぐ開けるスマートフォン専用アプリやフェイスブックの導入も市広報等との連携で、早急に進めていく必要がある。SNSの活用で若者を引き付け、U・Iターン促進につなげる効果も期待できる。

読者層を広げ、多くの市民に読んでもらうための改革は、一朝一夕にはできないが、数年かけて議員全員で繰り返し取り組んでいくことが求められる。

この議会だより改革により、市民が市政に興味を深め、議会に期待を寄せ、市民の声が市政に反映され、「見える」議会として存在価値を高める取組に繋げる必要がある。